

## 【2024年10月 第15回 対面&オンライン講演会】

●2024年10月3日(木) 14:00~15:30

講師： 金 大 偉氏(映画監督、音楽家、画家)

演題： 「失われた満洲民族の原郷と薩満の宇宙の時空を求めて」  
(仮題)

【概 要】

【講師略歴】

<参加希望の方へ>

ZOOM を使ったのオンライン参加となります。

下記の URL をクリックするか、ミーティング ID とパスコードを入れて参加してください。視聴時はお顔かお名前がわかるようにし、ミュートにしてご参加ください。なお、ホストの方で記録のため録画いたします。(当日、開会1時間前から終了まで公開)

# 【2024年10月 第16回 対面&オンライン講演会】

●2024年10月10日(木) 14:00~15:30

講師: 金巻 精一氏 (マリンパートナーズ代表)

演題: 「海の温暖化の現状と魚  
—健全な海を次世代につなぐために—」

## 【概要】

我が国は、北から栄養に富んだ海流、親潮が南下し、南からは暖かい黒潮がやってきます。三陸沖でこの寒流と暖流がぶつかり、多くの魚介類が集まる、いわゆる世界三大漁場の一つを形成しています。このように水産物の生育にベストな海洋環境を持つ国は世界でもまれで、日本は位置的にも魚貝類に恵まれた国です。

しかし、近年の温暖化や異常気象と呼応して、海の温暖化も急激に進んでいます。魚類の北への移動、多発する魚介類の大量死など、海の異常現象は、温暖化へ向けた人類への警鐘です。また、次世代に健全な海の環境と豊かな魚介類を残すことが我々世代の責務でもあります。温暖化抑制に向けて、世界の国や人々の努力が今こそ必要です。講演では具体的な数値などもお示しし、日本を取り巻く海と魚介類の現状への理解を深めたいと思います。

## 【講師略歴】

- ・名前: 金巻 精一 (かなまき せいいち)
- ・肩書: マリンパートナーズ 代表
- ・専門: 海洋環境エンジニアリング

沖縄海洋博(1975年—1976年開催)前の1973年に当時の経済産業省が設立を主導した、財閥系海洋開発ベンチャーの一つ、芙蓉海洋開発(株)に入社。当時の最新の海洋開発関連事業に参画。2006年(一社)マリノフォーラム21に開発部長として移籍。水産庁の各種補助事業や委託事業に参画。技術審議役を経て、2014年にマリノフォーラム21を退職、海洋環境コンサルティングを主業務にマリンパートナーズを設立。2021年、72歳で事業を整理し、魚食普及活動などをメインに活動中。

## <参加希望の方へ>

ZOOM を使ったのオンライン参加となります。

下記の URL をクリックするか、ミーティング ID とパスコードを入れて参加してください。視聴時は顔かお名前がわかるようにし、ミュートにしてご参加ください。なお、ホストの方で記録のため録画いたします。(当日、開会1時間前から終了まで公開)

# 【2024年10月 第17回 対面&オンライン講演会】

●2024年10月24日(木) 14:00~15:30

講師： 最上 善広氏（お茶の水女子大学名誉教授、  
放送大学特任教授東京足立学習センター長）

演題： 「ゾウリムシは宇宙を目指す—  
—研究者の宇宙実験始末記」

## 【概要】

国際宇宙ステーションの運用が始まってから10年以上が経過しました。これまでに多くの宇宙実験がなされて、数多くの知見が得られています。しかし、国際情勢の変化に伴い、ステーションの未来が見通せなくなりつつあり、更に人々の関心は、月や火星への進出に向けられています。そんな変化の時期を迎えるに当たり、日本の宇宙生物学実験の黎明期から参加してきた自分自身の研究の歩みを振り返って見たいと思います。宇宙に関わるきっかけはゾウリムシの研究でした、ゾウリムシのような微生物の遊泳行動の研究という、いわば、日の当たらない「これぞ 基礎研究」から始まってどんないきさつで宇宙というビッグサイエンスと関わりを持つようになり、その結果どのような宇宙実験に関わってきたのか、を総括しながら、今後の研究の展望について触れたいと思います。

## 【講師略歴】

東京大学理学部、同大学大学院で動物生理学を専攻。理学博士。その後お茶の水女子大学にて、微小生物の遊泳を中心としたバイオメカニクスを研究。その過程で重力生物学に注目し、黎明期の日本の宇宙生物学の発足に関与。初期の宇宙実験や地上微小重力実験施設、航空機を用いた微小重力実験を行ってきた。

## 【講師略歴】

### <参加希望の方へ>

ZOOM を使ったのオンライン参加となります。

下記の URL をクリックするか、ミーティング ID とパスコードを入れて参加してください。視聴時はお顔かお名前がわかるようにし、ミュートにしてご参加ください。なお、ホストの方で記録のため録画いたします。（当日、開会 1 時間前から終了まで公開）

# 【2024年10月 第18回 対面&オンライン講演会】

●2024年10月30日(水) 14:00~15:30 (曜日注意)

講師: 山根 徹也氏 (横浜市立大学教授)

演題: 「ドイツにおけるイスラエル—パレスチナ問題をめぐって」

## 【概要】

イスラエルのガザ侵攻開始から1年になります。ガザ地区での死者数は4万人を超えていると見られています。犠牲者の大きな部分は子どもを含む非戦闘員です。このようなイスラエルの非人道的行為はすでにジェノサイドであり、国際法に違反しています。

このような戦闘を続けるイスラエルの強力な軍事力を支えているのは、アメリカ、ドイツなど「西側」からの支援です。

特にドイツ政府の態度は、アメリカ政府のそれと並んで、かなり積極的にイスラエル政府支持を打ち出していることで、西側諸国のあいだですら突出しています。また、ドイツの与野党主要諸政党、マスメディアにおいてもイスラエルを支持する姿勢が支配的で、さらには、パレスチナ連帯運動を抑圧する動きもあります。

こうしたドイツ国内でのイスラエル問題とその背景を検討します。

## 【講師略歴】

神奈川県出身。1965年生まれ。東京大学文学部を経て東京大学大学院博士課程を修了、学位は博士(学術)。1999年より横浜市立大学に専任教員として勤務。

専攻はドイツ近現代史研究。著作に『パンと民衆—19世紀プロイセンにおけるモラル・エコノミー』(山川出版社刊)など、翻訳では(共訳)『資料を見て考える ホロコーストの歴史 - ヴェンゼー会議とナチス・ドイツのユダヤ人絶滅政策(横浜市立大学叢書 8)』(ヴェンゼー会議記念館編著、春風社刊)など。

## <参加希望の方へ>

ZOOM を使ったのオンライン参加となります。

下記の URL をクリックするか、ミーティング ID とパスコードを入れて参加してください。視聴時はお顔かお名前がわかるようにし、ミュートにしてご参加ください。なお、ホストの方で記録のため録画いたします。(当日、開会 1 時間前から終了まで公開)